

2020年10月5日

栃木県知事殿

住 所 栃木県栃木市境町27番21号
申請者 一般財団法人とちぎメディカルセンター
代表理事理事長
氏 名 福田 健



とちぎメディカルセンターしもつが地域医療支援病院業務報告について

標記について、医療法12条の2規定に基づき、2019年度の業務について報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒329-0043 栃木県栃木市境町27番21号
氏名	一般財団法人とちぎメディカルセンター 代表理事理事長 福田 健

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

とちぎメディカルセンターしもつが

3 所在の場所

〒329-4498 栃木県栃木市大平町川連420番地1 電話 (0282) 22-2551

4 病床数

精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	合計
床	6床	床	床	301床	307床

5 施設の構造設備

施設名	設備概要
集中治療室	(主な設備) 人口呼吸器 心電図 ベッドサイドモニター 病床数 8 床 除細動器 超音波診断装置 血圧監視装置
化学検査室	(主な設備) 骨髓像計数装置 血中ビリルビン定量計 顕微鏡 分光光度計 血液製剤X線照射装置 血液保冷库 遠心機 全自動尿分析装置 尿沈査児童分 析装置 全自動便分析装置 自動血球分析装置 全自動血液凝固測定装置 生化学自動分析装置 糖尿病検査装置 血液ガス分析装置 全自動免疫装置
細菌検査室	(主な設備) バイオガードクリーンベンチ 遠心機 恒温孵卵器 インキュベ ーター オートクレーブ 落射蛍光顕微鏡 感熱滅菌器
病理検査室	(主な設備) ミクロトーム 自動細胞収集装置 システム生物顕微鏡 病理標本自動封入装置
病理解剖室	(主な設備) 解剖台 マクロ撮影装置 電子天秤
研究室	(主な設備) オーダリングパソコン インターネットパソコン
講義室	室数 1 室 収容定員 200 人音響装置 プロジェクター 椅子 机
図書室	室数 1 室 蔵所数 2000 冊程度
救急用又は患者 搬送用自動車	(主な設備) 保有台数 1 台
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 7.25 m ²

(注) 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器等を記入すること。

(様式例第12) 他の病院又は診療所から紹介された患者に対し医療を提供する体制が整備されていることを証する書類及び救急医療の提供実績

地域医療支援病院 紹介率	62.5%	算定 期間	平成31年4月1日～令和1年3月31日
地域医療支援病院 逆紹介率	78.6%		
算出 根拠	A：紹介患者の数		8,160人
	B：初診患者の数		13,065人
	C：逆紹介患者の数		10,264人

1. 地域医療支援病院紹介率及び地域医療支援病院逆紹介率

(注) 1 「地域医療支援病院紹介率」欄は、AをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「地域医療支援病院逆紹介率」欄は、CをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 それぞれの患者数については、前年度の延数を記入すること。

(様式例第13) 救急医療を提供する能力を有することを証する書類

1 重症救急患者の受け入れに対応できる医療従事者の確保状況

職種	氏名	勤務の態様		勤務時間	備考
医師		常勤	非専従	38.75時間	
医師		常勤	専従	38.75時間	
医師		常勤	専従	38.76時間	
医師		常勤	非専従	38.75時間	
医師		常勤	非専従	38.76時間	
医師		常勤	非専従	38.77時間	
医師		常勤	非専従	38.78時間	
医師		常勤	非専従	38.79時間	
医師		常勤	非専従	38.75時間	
医師		常勤	非専従	38.76時間	
医師		常勤	非専従	38.77時間	
医師		常勤	非専従	38.78時間	
医師		常勤	非専従	38.79時間	
医師		常勤	非専従	38.80時間	
医師		常勤	非専従	38.81時間	
医師		常勤	非専従	38.75時間	
医師		常勤	非専従	38.76時間	
医師		常勤	非専従	38.77時間	
医師		常勤	非専従	38.78時間	
医師		常勤	非専従	38.79時間	
医師		常勤	非専従	38.80時間	
医師		常勤	非専従	38.75時間	
医師		常勤	非専従	38.75時間	
医師		常勤	非専従	38.76時間	
医師		常勤	非専従	38.77時間	
医師		常勤	非専従	38.78時間	
医師		常勤	非専従	38.79時間	
医師		常勤	非専従	38.80時間	
医師		常勤	非専従	38.81時間	
医師		常勤	非専従	38.82時間	
医師		常勤	非専従	38.83時間	
医師		常勤	非専従	38.75時間	
医師		常勤	非専従	38.75時間	
医師		常勤	非専従	38.76時間	

医師	常勤	非専従	38.75時間
医師	常勤	非専従	38.76時間
医師	常勤	非専従	38.75時間
医師	常勤	非専従	38.76時間
医師	非常勤	専従	8.0時間
医師	非常勤	専従	8.1時間
医師	非常勤	専従	8.2時間
医師	常勤	非専従	38.75時間
医師	常勤	非専従	38.75時間
医師	常勤	非専従	38.76時間
看護師	常勤	専従	38.75時間
看護師	常勤	専従	38.75時間
看護師	常勤	専従	38.75時間
看護師	常勤	専従	38.75時間
看護師	常勤	専従	38.75時間
看護師	常勤	専従	38.75時間
看護師	常勤	専従	38.75時間
看護師	常勤	専従	38.75時間
看護師	常勤	専従	38.76時間
准看護師	常勤	専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.76時間
看護師	常勤	非専従	38.77時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
准看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
准看護師	常勤	非専従	38.75時間
准看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.76時間
看護師	常勤	非専従	38.77時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間

看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
看護師	常勤	非専従	38.76時間
看護師	常勤	非専従	38.77時間
看護師	常勤	非専従	38.78時間
看護師	常勤	非専従	38.75時間
准看護師	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	常勤	非専従	38.75時間
薬剤師	常勤	非専従	38.76時間
薬剤師	常勤	非専従	38.77時間
薬剤師	常勤	非専従	38.78時間
検査技師	常勤	非専従	38.79時間
検査技師	常勤	非専従	38.80時間
検査技師	常勤	非専従	38.81時間
検査技師	常勤	非専従	38.82時間
検査技師	常勤	非専従	38.83時間
検査技師	常勤	非専従	38.84時間
検査技師	常勤	非専従	38.85時間
検査技師	常勤	非専従	38.86時間
検査技師	常勤	非専従	38.87時間
検査技師	常勤	非専従	38.88時間
検査技師	常勤	非専従	38.89時間
検査技師	常勤	非専従	38.90時間
検査技師	常勤	非専従	38.91時間
検査技師	常勤	非専従	38.92時間
検査技師	常勤	非専従	38.93時間

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	12床

(注) 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載すること。

3 重症救急患者に必要な検査、治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
診察室	513.90㎡	除細動器 心電図 患者監視装置 超音波診断装置 人口呼吸器	可
処置室	91.12㎡	患者監視装置	可
検体検査室	207.59㎡	(主な設備) 骨髓像計数装置 血中ビリルビン定量計 顕微鏡 分光光度計 血液製剤×線照射装置 血液保冷库 遠心機 全自動尿分析装置 尿沈査児童分析装置 全自動便分析装置 自動血球分析装置 全自動血液凝固測定装置 生化学自動分析装置 糖尿病検査装置 血液ガス分析装置 全自動免疫装置 (主な設備)	可
細菌室	23.15㎡	バイオガードクリーンベンチ 遠心機恒温孵卵器 インキュベーター オートクレーブ 落射蛍光顕微鏡 乾熱滅菌器	可
病理室	25.67㎡	マイクローム 自動細胞収集装置 システム 生物顕微鏡 病理標本自動封入装置 パラフィン包埋ブロック作成装置 密閉式自動固定包埋装置 凍結マイクローム	可
生理検査室	268.14㎡	長時間心電図記録装置 心電計 重心動揺計 除細動器 超音波診断装置 誘発電位検査装置 呼吸機能分析装置 ストレストテストシステム 長時間心電図解析システム 脳波計 血圧脈波検査装置	可
放射線室	746.71㎡	体外衝撃波結石破碎装置 X線一般撮影装置 X線骨密度装置 乳房用X線装置 全身用血管撮影装置 デジタルX線TVシステム 磁気共鳴画像装置 全身用X線CT装置	可

4 備考

救急告示病院 平成31年2月1日

(注) 特定の診療科において、重症救急患者の受入体制を確保する場合には、その旨を記載すること。
既に、救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第8号）に基づき都道府県知事の救急病院の認定を受けている病院、救急医療対策の設備事業について（昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあつては、その旨を記載すること。

5 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	3371人 1,385人)
上記以外の救急患者の数	3525人 (661 人)
合計	6896人 (2046 人)

(注) それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入すること。

括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

6 救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	1台
---------------	----

(様式例第 14) 地域医療従事者による診療、研究又は研修のための利用（共同利用）のための体制が整備されていることを証する書類

(2) 共同利用の実績

1 共同利用の実績

・ コンピュータ断層撮影	316 件
・ 磁気共鳴コンピュータ断層撮影	762 件
・ 胸部・骨盤計測レントゲン	8 件
・ 骨密度検査	156 件
・ 超音波検査・ABI 含む	483 件
・ ホルター心電図	0 件
・ 脳波検査	1 件
内視鏡検査	15 件
共同利用を行なった医療機関数	66 件
共同利用を行なった医療機関延べ数	1741 件
開設者と直接関係のない医療機関延べ数	1741 件
病床利用件数	0 件

(注) 前年度において共同利用を行った実績がある場合において、当該前年度の共同利用を行った医療機関の延べ数、これらの医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数、共同利用に係る病床の病床利用率を明記すること。

2 共同利用の範囲等

・ コンピュータ断層撮影
・ 磁気共鳴コンピュータ断層撮影
・ 胸部レントゲン
・ 骨盤計測レントゲン
・ 骨密度検査
・ 超音波検査
・ 血圧脈波検査 (ABI)
・ ホルター心電図
・ 脳波検査
・ 内視鏡検査

(注) 当該病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象とする予定のものを明記すること。

3 共同利用の体制

ア 共同利用に関する規定の有無 有 ・ 無

イ 利用医師等登録制度の担当者 氏 名：早乙女 守子

職 種：看護師

(注) 共同利用に関する規定が有る場合には、当該規定の写しを添付すること。

4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住所	主たる診療科名	地域医療支援病院 開設者との経営上 の関係
青木医院	青木 虎男	栃木市嘉右衛門町6-10	内科	無
青木眼科医院	青木 真祐	栃木市藪部町2-1-4	眼科	無
秋元クリニック	秋元 明彦	栃木市平柳町2-27-13	内科	無
天海内科	天海 照夫	栃木市片柳町1-6-40	内科	無
池森クリニック	池森 亨介	栃木市河合町2-3 エクセルパルビル2F	内科	無
石井内科医院	石井 重利	栃木市沼和田町49-1	内科	無
うづまクリニック	大森 正規	栃木市川原田町1608-1	内科	無
えぐち内科クリニック	江口 学	栃木市錦町9-5	内科	無
大島医院	永谷 久美	栃木市片柳町1-17-19	内科	無
おおやクリニック	大家 準	栃木市片柳町2-1-50	整形外科・内科	無
岡田皮膚科耳鼻咽喉科クリニック	岡田 嘉右衛門	栃木市境町21-7	皮膚科・耳鼻咽喉科	無
金子内科医院	金子 明弘	栃木市吹上町1642-1	内科	無
金田医院	金田 文衛	栃木市日の出町1-6	内科	無
亀田整形外科医院	亀田 郁郎	栃木市箱森町25-72	整形外科	無
河口医院	河口 達仁	栃木市錦町6-12	内科	無
かわしまクリニック	川島 吉人	栃木市城内町2-34-20	内科・外科	無
蔵の街診療所	福地 将彦	栃木市今泉町1-17-29	内科	無
好生医院	石塚 毅彦	栃木市倭町2-25	内科	無
こばやしクリニック	小林 晃	栃木市箱森町51-40	内科	無
こひらメディカルクリニック	豊田 啓子	栃木市小平町12-17	内科	無
さいとう小児科	斉藤 伸夫	栃木市万町30-16	小児科	無
桜井こどもクリニック	櫻井 賢司	栃木市本町16-9	小児科	無
さくら眼科クリニック	大塚 信行	栃木市片柳町4-15-27	眼科	無
サンライズクリニック	深谷 汎	栃木市日ノ出町6-6	内科	無
サンレディースクリニック	宮内 裕光	栃木市樋ノ口町504-1	産婦人科	無
島野小児科医院	島野 了	栃木市片柳町1-27-15	小児科	無
関口医院	関口 弘道	栃木市泉町21-3	内科	無
大門内科医院	大門 剛	栃木市大町27-24	内科	無
高田クリニック	高田 良久	栃木市万町16-23	内科	無
高田産婦人科医院	高田 一男	栃木市片柳町1-17-3	産婦人科	無
竹田内科小児科クリニック	竹田 航一	栃木市大宮町52	内科	無
たまのクリニック	玉野 稔博	栃木市片柳町1-6-3	内科	無
ちづかクリニック	腰塚 学	栃木市大森町445-4	内科	無
土谷医院	土谷 正雄	栃木市旭町22-10	内科	無
筒井医院	筒井 仁	栃木市神田町10-14	内科	無
とちぎ診療所	嶋崎 勝典	栃木市片柳町5-11-9	外科	無
栃木中央クリニック	粟田口 淳子	栃木市万町13-13	内科	無
なかつぼクリニック	中坪 直樹	栃木市箱森町34-17	内科	無
中野病院	中野 誠	栃木市祝町8-1	内科	無
中元内科医院	中元 明哉	栃木市今泉町2-10-18	内科	無
成田内科	成田 淳夫	栃木市河合町9-10	内科	無
なんばクリニック	難波 美津雄	栃木市平井町219-5	内科	無
新村ファミリークリニック	新村 清美	栃木市大宮町2120-11	小児科	無
野崎医院	野崎 泰宏	栃木市入舟町14-3	消化器科	無
のぞみ整形外科	林 衛	栃木市片柳町4-15-30	整形外科	無
芳賀耳鼻咽喉科医院	芳賀 士郎	栃木市柳橋町6-28	耳鼻咽喉科	無
橋本医院	橋本 安紀子	栃木市樋ノ口町396-39	内科	無
ふじさわクリニック	藤澤 亨	栃木市境町1-23 隆盛館ビル2F	心療内科・精神科	無
三浦整形外科	三浦 敦	栃木市野中町1381-10	整形外科	無
箕輪内科	箕輪 均	栃木市嘉右衛門町10-6	内科	無
山門クリニック	山門 悦子	栃木市日ノ出町6-35	内科	無
よこやま内科小児科クリニック	横山 孝典	栃木市箱森町38-70	内科	無
わたなべ内科・循環器科クリニック	渡邊 和宏	栃木市野中町625-1	内科	無
あまがいの内科医院	天下井 正弘	栃木市岩舟町下津原189-2	内科	無
江田クリニック	江田 証	栃木市岩舟町小野寺2575-7	内科	無
熊倉医院	熊倉 忍	栃木市岩舟町新里180	内科	無
小松原医院	小松原 利文	栃木市岩舟町静550-2	内科	無
静和医院	青木 章	栃木市岩舟町静和2166-1	内科	無

医療機関名	開設者名	住所	主たる診療科名	地域医療支援病院 開設者との経営上 の関係
耳鼻咽喉科皮膚科しまだクリニック	島田 均	栃木市岩舟町置岡534-1	耳鼻咽喉科・皮膚科	無
高橋眼科	高橋 直人	栃木市岩舟町静843	眼科	無
博愛クリニック	石川 博人	栃木市岩舟町静1071-1	整形外科	無
橋本腎内科クリニック	橋本 義孝	栃木市岩舟町和泉1457-1	内科	無
長谷川医院	長谷川 秀実	栃木市岩舟町静和2114-6	内科	無
あおき耳鼻咽喉科医院	青木 謙祐	栃木市大平町新1474-1	耳鼻咽喉科	無
おおひらレディスクリニック	岸本 恭紀	栃木市大平町下皆川753	産婦人科	無
大平ファミリークリニック	長 政利	栃木市大平町富田5-229	内科	無
かわたクリニック	川田 浩	栃木市大平町西野田640-1	内科	無
小森谷内科医院	小森谷 武美	栃木市大平町富田4003-8	内科	無
整形外科メディカルパス	町田 敏	栃木市大平町西水1943-1	整形外科	無
田村医院	田村 治	栃木市大平町西水代1835-1	内科	無
鶴見皮膚科	鶴見 純也	栃木市大平町新1540-31	皮膚科	無
藤沼医院	藤沼 彰	栃木市大平町富田592-1	内科	無
みずほクリニック	小山 照夫	栃木市大平町牛久99-2	脳神経外科	無
森川内科・外科クリニック	森川 丘道	栃木市大平町新1068	内科	無
合戦場クリニック	山田 吾郎	栃木市都賀町合戦場212-5	内科	無
百瀬医院	百瀬 正明	栃木市都賀町木383-1	整形外科	無
腰塚医院	腰塚 格	栃木市藤岡町藤岡1845-10	外科	無
藤岡診療所	天野 一夫	栃木市藤岡町藤岡5005	内科	無
藤岡整形外科クリニック	鈴木 基廣	栃木市藤岡町藤岡25	整形外科	無
持田医院	持田 忍	栃木市藤岡町中根115-5	内科	無
大橋内科クリニック	大橋 裕二	下都賀郡壬生町福和田1003-1	内科	無
小倉医院	小倉 建夫	下都賀郡壬生町通町10-5	内科	無

注 当該病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関のみ記入すること。

常時共同利用可能な病床数	7 床
--------------	-----

2019年度

(様式例第15) 地域医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有することの証明

1 研修の内容

	日付	項目	題名	院外		院内		合計
				医師	外	医師	外	
1	6.6	第15回思川運動器セミナー	足部スポーツ外傷の診断と治療 -脆弱性骨折の早期競技復帰を目指して-	21	40	3	7	71
2	6.21	蔵の街医療介護セミナー	アルツハイマー型認知症の予防と対処法	20	84	1	19	124
3	7.22	整形外科症例検討会	地域連携クリティカルパス委員会	4	0	4	12	20
4	9.19	第20回蔵の街糖尿病研究会	CGMを用いた糖尿病治療の展望	16	11	2	18	47
5	9.13	蔵の街骨を語る会第5回セミナー	骨粗鬆症の最近の知見～ロモソズマブを含めて～	10	13	1	8	32
6	9.26	蔵の街CKDセミナー	栃木県糖尿病重症化予防プログラム3年目の課題 腎不全の進行を抑えるための合併症管理	5	14	2	7	28
7	10.3	栃木市DXA連携の会	とちぎメディカルセンターしもつが病院におけるDXA共同運用について	4	6	5	19	34
8	11.1	第11回糖尿病みんなでフォーラム	腎臓病を合併した2型糖尿病治療の最新の話題-CREDENCEの結果を踏まえて-	24	51	2	14	91
9	12.5	第16回思川運動器セミナー	凍結肩・腱板断裂治療の最前線～リハビリも含めて～	33	66	3	10	112
10	12.1	第1回VTE診療 連携セミナー	整形外科周術期静脈血栓塞栓症予防ガイドラインの変遷と課題	8	6	6	13	33
11	1.15	第30回栃木地区薬薬連携研修会	赤色血栓による血栓塞栓症の薬物治療について	1	31	0	7	39
12	2.13	抗血栓療法を考える会	循環器領域における出血のマネジメント	8	0	1	3	12
				154	322	30	137	643

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	12回
(2) (1) の合計研修者数	643人

(注) 1 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(注) 2 (2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

ア 研修プログラムの有無 有・無

イ 研修委員会設置の有無 有・無

(注) 教育責任者については、特記事項欄にその旨を記載すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備概要
図書室	85.89m ²	コピー機・パソコン5台 インターネット設備
講堂	236.62m ²	プロジェクター・音響設備・パソコン・電動スクリーン
	m ²	(主な設備)
	m ²	(主な設備)
	m ²	(主な設備)

(様式例第16) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 中間 季雄
管理担当者氏名	事務部長 松下 正弘

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、入院診療計画書、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		各科で管理・保管	入院診療録・外来診療録 (末位桁番号順に分類) 病院日誌・各科日誌は年度により保存
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	地域医療連携室	年度毎に分類
	救急医療の提供の実績	地域医療連携室	年度・科別に分類
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	地域医療連携室	年度毎に分類
	閲覧実績	地域医療連携室	年度毎に分類
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	地域医療連携室	年度毎に分類

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式例第17) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

閲覧責任者氏名	事務部長 松下 正弘
閲覧担当者氏名	地域医療連携室室長谷田貝理恵・総務課長 酒巻 正和 診療情報管理課長 横塚貴史
閲覧の求めに応じる場所	地域医療連携室
<p>閲覧の手続の概要</p> <p>病院管理に関する日誌類</p> <p>① 事前に閲覧文書、閲覧目的を記載した「文書開示請求書」を閲覧担当者へ提出</p> <p>② 提出された「文書開示請求書」により、開示の可否を決定</p> <p>③ 開示可能と決定した場合は、開示請求者に対して開示日時などを連絡</p> <p>④ 開示当日は、閲覧担当者が立ち会い、閲覧を行う</p> <p>診療録関係</p> <p>① 閲覧の希望及び閲覧の書類閲覧日を事前に連絡</p> <p>② 閲覧当日は、所定の用紙に氏名、患者氏名を記載</p> <p>③ 閲覧場所で閲覧担当者が立ち会い閲覧を行う</p> <p>④ 閲覧後、入院中の患者と面談、診察を行った場合は、面談内容を主治医に連絡する。</p>	

前年度の総閲覧件数		0件
閲覧者別	医師	件
	歯科医師	件
	地方公共団体	件
	その他	件

(様式例第18) 委員会の開催の実績

委員会の開催回数	4回	
委員会における議論の概要		
別紙		

(注) 委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

2019 年度

とちぎメディカルセンターしもつが地域医療支援病院運営委員会議事録

開催日 令和元年5月31日(金)

時間 13:30~14:30

場所 とちぎメディカルセンターしもつが
2階講堂

出席者 下都賀郡市医師会副会長兼栃木市医師会会長・下都賀歯科医師会会長
栃木県南健康福祉センター所長・栃木市保健福祉部健康増進課課長
栃木市消防本部消防長・栃木市消防本部警防課長
しもつが院長・事務部長・総合連携推進本部本部長代行・看護部長・地域医療連携室長

1. 開 会

新任委員紹介 外部委員 山口 哲郎様 石川 交子様
内部委員 安形 弘志

司 会 院長 中間 季雄

2. 挨拶 院長 中間 季雄

3. 議 事

(1) 2018年度実績について

1) 救急医療の実績

谷田貝) 資料より説明。2,018年度、救急患者受入総数7,164人、救急車受入総数3,536人の内、入院は1,525人、入院率43.1%です。自家用車来院受入数3,628人の内、入院650人、入院率17.9%です。2,019年4月は、受入総数533人、救急車来院307人搬送中、入院131人42.7%の入院率です。当番日と当番日外に分けて集計しており、資料の数字となっています。救急搬送診察後、救急部より他院へ転院搬送した内容と救急受入れ困難数、内訳について説明。救急の受入れが前年度と比較して、500人増となっており、救急受入れ困難の件数もその分増えています。受入率は上がっています。

大橋) 2,018年度、1月の救急受入れ困難数が117件といつもの月より増えているのは病床の制限によるものですか。

谷田貝) インフルエンザ蔓延により、2週間程度、受入れ制限があった月です。

横山) 2,018年度7、8月の救急車の受入れが増えているのは熱中症による搬送患者数増加によるものですか。

石田) 昨年の栃木市消防本部として熱中症の搬送患者は150人でした。前年度と比較すると、全体の搬送患者数は72件減少していますが、今年度5月現在の熱中症に対する出場は既に約10人となっています。今年も猛暑が予想されますので、7月以降から増えてくると思います。

中間) これからが猛暑本番の時期なので、熱中症による脱水症の患者が重複した場合、内科医師の対応の外、外科系医師の協力を仰ぎ、対応したいと考えています。

石田) 一昨年、しもつが救急部大森医師と、当番日、当番日外の救急の受入れについてお話する機会がありましたが、受入れ状況について何か変化がありますか。

谷田貝) 患者の状態で対応していると思いますが、当院かかりつけで、救急対応可能な患者は当番日

外でも、最初から当院で受入れ、大学病院でないと時間外の対応が難しい状態の場合、かかりつけの方でも獨協医大へお願いしています。当番日、当番日外の差はそれほどないと感じています。

大橋) 1日当たりの救急車受入数はどれくらいですか。

谷田貝) 1日、5台から10台の救急車の受入れとなっており、当番日5日間(日、月、火、水、金)当番日外は2日間(木、土)で、受入れ台数はどちらも同じくらいです。前回、大橋先生よりご指導頂きましたが、救急部の受入れ困難事例の検討会を救急部と栃木市消防本部救急隊とで少人数ですがワーキンググループを作り、定期的に行なっていくことになりました。

2) 紹介患者に対する医療の実績

谷田貝) 資料より説明。2,018年度は紹介率59.9%、逆紹介率75.2%でした。今年度4月の紹介率62.5%、逆紹介率79.4%でどちらも要件をクリアしています。昨年度と比較すると若干紹介率が下がっています。ご紹介ありがとうございました。

中間) 紹介状を持参する方が増えてきましたが、整形外科では持参せずに受診する方が未だに多い現状です。

3) 研修会について

谷田貝) 資料より説明。2,018年度は32回研修会を実施。院外1,116名、院内282名、総数1,398名の方に参加して頂きました。年間で12回以上の要件はクリアしています。2,019年度の研修会の予定も含め報告致します。市民公開講座、出前講座も既にいくつか実施しています。出前講座については整形外科の医師が積極的に活動し、各公民館などに出向き、地域住民へ向けての講座を開いております。今後も多くの研修会、出前講座を計画的に行なっていきたいと思えます。7月の市民公開講座では当院の研修医の講座と同日、救急車の適正利用について栃木市消防本部の救急救命士の方に講師をお願いしました。とちのきでの市民公開講座でも同様をお願いしています。

中間) 今年度は色々なタイトルの出前講座を増やして活動していく予定です。

4) 共同利用実績について

谷田貝) 資料4より説明。

2,018年度の共同利用総件数973件です。現在、超音波による頸動脈エコーなども多くご利用頂いています。

横山) 今後のCT、MRの対応はどの様になりますか。

藤栄) 7月の医療連携懇話会までに正式な対応が決定します。MRが1台入りましたので、受け入れ枠を少し増やして対応させて頂いています。TMC診療所のMRは耐用年数が過ぎていますので、9月以降は当院で受けていくこととなります。

安形) 医師会との調整会議で今後の対応について検討させて頂きます。

中間) TMC診療所で撮影したMRは画質がよくないので、整形外科の脊椎や関節などはご紹介して頂いた方が良くと思います。

(2) その他

中間) 今年度の救急車の受入れは5月現在でどの様になっていますか。

谷田貝) 5月現在では1日約8台の救急車受入れとなっていますので、一月250台くらいになると思います。

石田) 栃木市消防本部では救急の出場は減っていますが、今年に入り、雨が降らず乾燥による火災

が発生し、消防車の出場が増えています。

大橋) 特に他からも問題があった報告は入っていませんでしたが、10 連休の対応はいかがでしたか。事前の対策と地域住民への周知により対応できたのでしょうか。

中間) 4月30日と5月2日は通常同様に診療を行いました。特に問題なく対応できました。救急部の対応も普段と変わりなく行えた様です。

横山) 急患センターも例年のゴールデンウィークと変わらず対応できた様です。いくつかの病院と診療所が診療を行っていた為、時間外の対応については問題なかったと思います。

石田) 電話医療相談が増えていると聞いていますが、どの様な状況でしょうか。

大橋) 県が取り纏めしていますので、数字的なものは分かりかねます。

中間) 薬剤師会とは今後も時間外の対応などでお世話になりますので、今後共よろしく願います。

(3)次回開催について

2019年9月6日(金)午後13時30～予定

2019 年度

とちぎメディカルセンターしもつが地域医療支援病院運営委員会議事録

開催日 令和元年9月6日(金)
時 間 13:30~14:30
場 所 とちぎメディカルセンターしもつが
2階講堂

出席者 下都賀郡市医師会副会長兼栃木市医師会会長・下都賀歯科医師会会長
栃木県南健康福祉センター所長・栃木市保健福祉部健康増進課課長
栃木市消防本部警防課長
しもつが院長・事務部長・総合連携推進本部本部長代行・看護部長・地域医療連携室長

1. 開 会 院長 中間 季雄

2. 挨拶 院長 中間 季雄

3. 議 事

(1) 2019 年度実績について

1) 救急医療の実績

谷田貝) 資料より説明。2,019年8月現在の救急患者受入総数2,917人、救急車受入総数1,443人の内、入院は611人、入院率42.3%です。自家用車来院受入数1,474人の内、入院290人、入院率19.7%です。ひと月の約20日間が当番日で、当番日と当番日外に分けて集計しています。救急搬送された患者診察後に他院へ転院搬送した疾患名と搬送先の資料の報告です。8月は専門医不在やとちのきかかりつけの患者や緊急手術を要する疾患など、12件の転院搬送がありました。救急受入れ困難数の内訳について説明。救急の受入れと救急受入れ困難件数はどちらも昨年度と同様です。当院の救急搬送受入率は約82%です。

中間) 救急受入れ困難の事例については、救急搬送患者の重複や病棟急変患者対応などが多かった様です。救急部診察後の転院搬送の事例については、緊急手術を要する疾患や病床の受入れ困難などがあり、比較的軽症で入院を要する疾患の場合に、とちのきへ搬送となった事例もありました。

横山) ウォークインでの救急受診が増えている様ですが、診療所の休診など、何が原因なのかわかりますか。

谷田貝) 特に診療所の休診の為に受入れたとの報告はありませんので、熱中症など、救急を要するウォークイン患者の受診数が多かったのだと思います。

大橋) 昨年の小山市の花火大会には人が多く集まり、救急搬送患者の集中があり、対応困難により県外の医療機関にお願いしたとの報告がありましたが、栃木市のお祭りではどうでしたか。

鈴木) 栃木市では、特に救急搬送依頼が急増することはありませんでした。

横山) 小山市の花火大会は比較的規模が大きいですが、栃木市のお祭りの参加人数はそれほど多くないので救急搬送に支障はなかったと思います。

2) 紹介患者に対する医療の実績

- 谷田貝) 資料より説明。2,019年度7月現在では、紹介率59%、逆紹介率74.9%です。要件はどちらもクリアしています。逆紹介率が下がっている月については、医師の書類作成の遅延などに関係すると考えられ、返書の書類が作成された月の逆紹介率が増加する傾向にある様です。ご紹介ありがとうございました。
- 横山) とちのき、とちぎの郷としもつが間の紹介については紹介率には反映しないのですか。とちのきで検診を受けた患者の紹介が反映するとともに紹介率が上がると思います。
- 谷田貝) 反映すれば、紹介率、逆紹介率も上がってくるのですが、同一法人内での紹介については算定出来ないことになっています。

3) 研修会について

- 谷田貝) 資料より説明。2,019年度は30回研修会を実施予定です。院外722名、院内90名、総数812名の方に参加して頂きました。年間で12回以上の要件はクリアしています。市民公開講座については、栃木市広報誌のおかげもあり、地域住民へ周知され、医師が講師を務める講座については特に多くの方に参加して頂き、70名前後となっております。今後も多くの研修会、出前講座を計画的に行なっていきたいと思います。
- 大橋) 医療者向けと地域住民向けの表記を区別した方が良いと思います。
- 中間) 現在、整形外科の医師が積極的に運動疾患について出前講座を行っており、多くの方に参加して頂いております。
- 石川) 村野医師予定の11月の市民公開講座ですが、広報誌の締切りの関係もあり演題が決定次第、連絡をお願いします。

4) 共同利用実績について

- 谷田貝) 資料4より説明。
2,019年8月現在の共同利用総件数515件です。現在、超音波による頸動脈エコーや骨密度も多くご利用頂いております。
- 横山) 10月からはCT、MRは確実に増えてくると思います。
- 藤栄) 10月からの受入れ体制を整えているところです。
- 中間) とちのきにも骨密度の器械が入りましたので、分散して受けてもらえると良いと考えます。
- 谷田貝) とちのきの受入れについては把握していません。

(2) その他

- 中間) 大腿骨頸部骨折の患者は年々増加している状況です。
- 横山) 治療法は日々変化していると思うので、薬の使い方など、どのようにすれば良いでしょうか。
- 中間) 病院の整形外科で骨粗鬆症外来などを開設して、診察治療後に紹介元の医療機関へ逆紹介する流れが出来ると良いと考えています。
- 臼井) ドクターヘリについてですが、獨協医大の情報では2回/日くらいと聞いていますが、しもつが以外でも永野川河川敷などに着地している様ですが、どれくらいの頻度で飛んでいるのかわかりますか。
- 鈴木) 1~2件/日、多い時は3~4件の日もあります。運用規定では日没までとなっておりますが、現在では状況により遅くに飛ぶこともある様です。
- 山口) お薬手帳の有効性についてですが、医療機関によって表記が違って、先発薬品の記載が無く、調べるのに難渋している現状ですが、明確な規定も無く、薬剤師間の連携の会が無いので病院としての問題点などお聞きしたいです。

- 横山) 病院には薬剤師がいますので、先発品がわかる術があると思いますが、急患センターには薬剤師は常駐していませんので、詳細な記載は出来ていない現状です。
- 谷田貝) 当院の薬剤部に問題点を投げかけてみます。

(3)次回開催について

2019年12月13日(金)午後13時30～予定

2019 年度

とちぎメディカルセンターしもつが地域医療支援病院運営委員会議事録

開催日 令和元年 12 月 13 日 (金)

時 間 13:30~14:30

場 所 とちぎメディカルセンターしもつが
2 階講堂

出席者 下都賀郡市医師会副会長兼栃木市医師会会長・下都賀歯科医師会会長
栃木地域薬剤師会会長・栃木県県南健康福祉センター所長代理
栃木市保健福祉部健康増進課課長・栃木市消防本部消防長・栃木市消防本部警防課長
しもつが院長・副院長・事務部長・総合連携推進本部本部長代行・看護部長・地域医療連携室長

1. 開 会 院長 中間 季雄
院内新役員紹介

2. 挨拶 院長 中間 季雄

3. 議 事

(1) 2019 年度実績について

1) 救急医療の実績

早乙女) 資料より説明。2,019 年 11 月現在の救急患者受入総数 4,661 人、救急車受入総数 2,302 人の内、入院は 949 人、入院率 41.2%です。自家用車来院受入数 2,359 人の内、入院 450 人、入院率 19.1%です。当番日と当番日外に分けて集計しています。救急の受入れと受入れ困難件数はどちらも昨年度と同様です。救急搬送されて診察後に他院へ転院搬送となった疾患名と搬送先の資料の報告です。12 月 10 現在で、満床によりとちのきへの搬送、専門医不在や緊急手術を要する疾患で大学病院へ搬送したケースなど 74 件の転院搬送がありました。

中間) 救急受入れ困難の事例については、救急搬送患者の重複や病棟急変患者対応中などが多かった様です。救急部診察後の転院搬送については、緊急手術を要する疾患や病床受入れ困難などがあり、比較的軽症で入院を要する疾患の患者さんを、とちのきへ搬送した事例がありました。

石田) 救急当番日外の受入れ件数についてですが、救急部大森医師の当番日外は獨協医大へ依頼してほしいとの意向があると思いますが、当番日と比較しても半数近い搬送の受入れをしている理由をわかる範囲で教えてください。

早乙女) 明確な理由については分かりませんが、経過を診ているかかりつけの患者さんについては受入れられる様になっていると思います。木曜日、土曜日、祝日が当番日外となっていますので、ひと月の約 20 日間が当院の当番日となっています。

中間) 当番病院の獨協医大が患者さんの状態によっては、近医で対応してほしいと言われた場合があるかと思っています。救急部大森医師によると、当番日、当番日外に関わらず、救急依頼の連絡が入る様です。

臼井) 救急車以外の自家用車やウォークインでの救急受診方法についてですが、電話で診察依頼が入るのですか。

早乙女) 連絡なしで来院の患者さんもいますが、電話依頼が殆どです。症状によっては急患センターへ受診を促す場合もあります。

横山) 救急隊としては、二次のファーストコールは当番病院に連絡しているのですか。

石田) 大平地区は藤沼医院が平日の一次救急を受入れている、原則としてはしもつがが二次救急の日
はしもつがへ、獨協医大が二次救急の日には獨協医大へ連絡する様にしています。かかりつけ医
がある場合や患者さんの状態により、救急隊が搬送先を決定しています。重要患者については
運行時間内であればドクターヘリを呼んで対応しています。今後も受入れをよろしくお願いま
す。

横山) 救急車の断り事由の中にある、その他の数字が若干増えていますが、どのようなものがありま
すか。

早乙女) 救急依頼の時間帯が17時頃の当直医師が手術や検査中で対応が困難の場合などが入ってい
ます。

中間) 救急の受入れが増加している数字を考えれば、それほどお断りは増えていないのかと思います。

石田) 今年は、例年と比べて救急の出動件数が200件ほど減っています。

2) 紹介患者に対する医療の実績

早乙女) 資料より説明。2019年11月現在では、紹介率60.3%、逆紹介率74.8%です。要件はどちら
もクリアしています。10月からCT、MRIの放射線科の紹介が増加したことにより、紹介率逆
紹介率が上がってきています。ご紹介ありがとうございました。

3) 研修会について

早乙女) 資料より説明。2019年度は医療者向けの研修会を9回実施し、院外422名、院内137名
総数559名の方に参加を頂きました。今後も多くの研修会、出前講座を計画的に行なっていき
たいと思います。市民公開講座では次年度も救急救命士の方に救急車の適正利用についてなど
の講師をお願いしています。

中間) 整形外科医が運動器についての出前講座を数多く行っており、多くの方に参加して頂いてお
ります。整形外科受診へと繋いでいければと考えております。出前講座や市民公開講座で何か
開いてほしいタイトルなどありましたら教えて下さい。

4) 共同利用実績について

早乙女) 資料4より説明。

2019年11月現在の共同利用総件数1,032件です。10月よりCT、MRIが2倍から3倍の増加
となっています。超音波による頸動脈エコーや骨密度も多くご利用頂いています。

藤栄) 10月からCT、MRIを数多く御依頼頂いており、非常に忙しくなっている状況です。

臼井) 歯科からTMC診療所に依頼していたCTは全てしもつがに一元化ということで良いですか。

藤栄) しもつがで全てお受けしています。

横山) CT、MRIの検査予約の待ち期間は、どれくらいですか。

早乙女) 依頼日から3~4日での予約が可能状態です。緊急の依頼については、各担当科にご紹介頂
く様にお願いしています。

横山) 頭部の疾患の場合に、専門医の対応が必要なので、放射線科依頼ではなくダイレクトに担当科
に依頼した方が早期対応出来ると思います。

中間) CT、MRIについては、紹介率アップにも関わってきますので、共同利用の数字の計上には入ら
ないものかと思いますが、次年度から集計方法を変えていきましょう。

(2) その他

山口) 薬剤師会より昨年度もこちらで報告しておりますが、栃木市在住の方で、向精神薬マイスリ
ー10mgの処方指定して、色々な医療機関を受診し、10月8回受診186錠、11月7回受診141
錠の処方を受けているという事例が発生しています。12月に入っては未だ報告は受けていま
せんが、社会保険から国民保険に変わった様です。受診時にはお薬手帳を持たず、調剤薬局も
複数利用しています。自身が内服していない様ですが、個人情報の問題があり法的な対応が難

しい事例の報告です。一度対応して頂いた先生方は慎重な対応をして頂いている様ですが、新しくできた診療所などを転々と受診し、調剤薬局もかなり離れた場所を選んでいる様です。

横山) お薬処方のみ希望の患者さんについては短期間の処方に対応をしていますので、医師会内での情報交換はしていますが、すり抜けているのでしょうか。

福田) 昨年も同様の処方を受けている報告を受けています。国民保険基金では細かいチェックがされますが、社会保険では難しいと思います。

臼井) 〜イトスピーチ禁止条例を成立させた市がありますので、栃木市もこのような患者さんの禁止条例が出来ると良いと思います。

(3)次回開催について

2020年3月13日(金)午後13時30～予定

2019 年度

とちぎメディカルセンターしもつが地域医療支援病院運営委員会議事録

開催日 令和2年3月13日(金)

時 間 13:30~14:30

場 所 とちぎメディカルセンターしもつが
2階講堂

コロナウィルスによる感染防止の為
委員会中止を 2020/03/10 決定する

3/11、各委員へ中止を電話連絡し 3/13 委員会資料を各委員へ送付し、委員会の代替えとした。

(8) 患者相談の実績

患者相談を行う場所	医療福祉相談室
主として患者相談を行った者 (複数回答可)	社会福祉士・精神保健福祉士
患者相談件数	8130件
患者相談の概要	
別紙のとおり	

(注) 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば記載すること。

平成31年度患者相談の実績

1. ケースの人数

区分	件数
総数	8,130
実人員	585
新規	533
継続	7,597
継続実人員	508

2. 対象者

区分	件数
入院	6,577
外来	1,433
自宅	12
その他	108

3. 住所

区分	件数
栃木市	4,520
大平町	1,301
岩舟町	610
藤岡町	567
都賀町	459
西方町	119
壬生町	133
小山市	96
その他	325

4. 相談方法

区分	件数
面接	690
電話	4,107
訪問	6
文書	5
来所	266
その他	3,056

5. 相談者

区分	件数
本人	880
家族	1,433
院内職員	2,911
行政機関	721
施設・医療機関	1,494
居宅支援事業者	626
その他	65

6. 相談内容

内容	件数
経済的な問題に関すること	127
退院に関すること	1,023
障害者支援に関すること	89
行政との連携に関わること	566
治療の問題に関わること	202
カンファレンス	69
その他	6,054